



マロウの 幻想的な物語り



Aparte Film, Sacrebleu Productions and Minds Meet present



愛とアートに溢れた“ワンコ”アニメーション

マロナスの 幻想的な物語り

A film by Anca Damian

監督: アンカ・ダミアン 脚本: アンゲル・ダミアン キャラクター・デザイン: プレヒト・エヴェンス 背景美術: ジナ・トーステンセン/サラ・マゼッティ
音楽: パブロ・ピコ プロデューサー: アンカ・ダミアン/ロン・ディエンス(『ロング・ウェイ・ノース 地球のてっぺん』)/トマス・レイヤース
2019|ルーマニア・フランス・ベルギー|フランス語|DCP|92分 提供: リスキット/マクザム/太秦/カルタクリエイティブ 配給: リスキット 後援: ルーマニア大使館 協力: キャトルステラ/stylab/げんべい商店

公式HP: maronas.info 公式Twitter: [@maronas_fantasy](https://twitter.com/maronas_fantasy) 公式Instagram: [@maronas_fantasy](https://www.instagram.com/maronas_fantasy) 公式Facebook: [@maronasfantasy](https://www.facebook.com/maronasfantasy)



作品介绍

『マロナの幻想的な物語り』は、ルーマニアのアバルト・フィルム、昨年ようやく日本公開されたフランス・デンマーク産長編アニメーション『ロング・ウェイ・ノース 地球のてっぺん』の仏サクレブルー・プロダクション、そしてベルギーのマインズ・ミート社による最新アニメーションです。アンカ・ダミアンはザグレブ国際映画祭で長編アニメーション『The Magic Mountain』(2015)でグランプリ受賞をはじめ、『Moon Hotel Kabul』(2018)、『The Call』(2018)でも各賞を受賞している世界が注目のルーマニアの女性監督・プロデューサーで、本作も東京アニメーションアワード2020にて、見事長編アニメーション部門グランプリを受賞しています。

『マロナの幻想的な物語り』は鼻がハート型のミックス犬マロナの生涯を描いた作品で、92分の本編には愛とアートが溢れんばかりに詰まっています。ルイ・ヴィトンの「トラベルブック」シリーズ・バリ編で知られるロマン・グラフィック界の代表格ブレヒト・エヴァンス、グラミー賞アーティスト、ゴティエのミュージック・クリップで注目を集めたビジュアル・アーティスト、ジナ・トーステンセン、ポローニャ国際児童図書展で国際賞受賞のイラストレーター、サラ・マゼッティといった優秀なクリエイター達による2Dと3Dの融合、特にクライマックスでのマロナの視点で描かれた描写は、そのあとの顛末を含め圧巻で、映画表現の歴史に刻まれるべき作品となっています。

また、本作は日本語字幕版に加え、日本語吹替え版も予定されており、今からオリジナル版との見比べが楽しみとなっています。



あらすじ

血統書付きの母と、ちょっと乱暴な父との間に生まれたマロナは、同時に生まれた9匹の末っ子で、「名前なし」ですが、便利的に「ナイン」と呼ばれていました。このハート型の鼻を持つ小さな犬は、生まれてすぐ彼女の家族から分離され、曲芸師、マノーレの手にわたります。マノーレはこの小さな犬にアナという名前を授け、アナは、大好きなマノーレと一緒に幸せな瞬間を過ごしていました。そんな中、マノーレに大きなチャンスがやってきます。ただしその仕事には「犬禁止」条項が付帯していました。アナは、自分がマノーレの負担になることを知ってマノーレのもとを去る決心をします。

さみしく通りをさまよっている彼女は、エンジニアのイシュトヴァンの働く現場のゴミ箱の中で発見されます。サラという新しい名前をもらい、建設現場で一緒に過ごした日々。イシュトヴァンはますますサラに愛着を持ち、建物が完成した後、彼の母親の家に彼女を連れて行くことにしました。老婦人は精神的な病をかかえていて、思わずサラを傷つけたので、サラはイシュトヴァンと彼の妻の家に引っ越します。イシュトヴァンの妻マダリナは、サラを彫像のようにじっとさせようとします。サラは彼女が望んでいたほど従順ではないので、少しずつマダリナは彼女を邪魔に扱います。幸いなことに、サラは逃げ出しました。

そして、彼女は少女ソランジュと公園で出会います。新たな名前はマロナ。最初は女の子の母親と祖父には受け入れられませんが、マロナは持ち前の愛くるしさで次第に家族全員を虜にします。ゆっくりとマロナは家族一人一人と絆を深めていきます。ある日、マロナは、散歩の途中、公園で倒れた祖父の命を救います。年月が経ち、ソランジュが10代になるにつれて、彼女は徐々に犬に興味を失います。

ある日、彼女はマロナを木に結び付け、デートの後で戻ってくることを約束してバスで街へと出かけます。マロナはソランジュの身に何かが起こることを予感し、結ばれていたリードを外し、ソランジュを追いかけて街を彷徨います。そして、バスから降りて車に轢かれそうになっているソランジュを見つけ、マロナは彼女の代わりに身を捨てて車に飛び込みます……





監督からのメッセージ

この映画は、愛らしい小型犬マロナの物語です。様々な飼い主の手を渡るマロナを通じて、私たちはハラハラドキドキする、奇跡のような旅を体験します。

この映画のアイデアを思いついた時、この一見「家族向け」に見える映画には、さらに深い意味を待たせることができると感じました。これは、現代の平凡な生活において重要でも目には見えない意味を、持たせることができる映画です。私はアニメーションを用いることで、その意味を追求するために、信頼と想像の世界を自由に作ることができました。ここでは、愉快的な方法で観る人たちの視点に影響を与えられると思います。犬の目線からものごとを見るということは、私たちが否定できない事実を映し出す鏡を、皆に渡すようなものです。私にとって、この映画は現代版のおとぎ話です。

マロナの運命は単純でありながらも重要で、個人的でありながらも普遍的なものです。今を生きる、ちっぽけなことを楽しむ、他人と深く繋がる。これが、犬から人間への「幸せの教訓」なのです。最後に流れる歌は、このメッセージを歌っています。

「**幸せは ほんのちっぽけなこと
取るに足りないこと
一皿のミルク
大きな温かい舌
昼寝
骨をかくす場所
手
笑顔**」



私のすべての映画作品の根底にあるテーマは、愛と死です。『マロナの幻想的な物語り』は、このテーマを最も個人的で、繊細で大胆な方法で具現化しています。

私は、マロナ、そしてすべての飼い主達に感情移入しました。必死になって人生の詩を探求する、孤独でメランコリックな曲芸師のマノーレ。優しいけどガサツで、気難しい大工のイシュトヴァン。お姫様であり、フラフラしていて、時には優しく、時にはどこまでも自分勝手なソランジュ。これらの飼い主達は、それぞれマロナの子供時代、思春期、老年期に呼応しています。それは、私たちが自分自身の人生を振り返る時と、まるで同じです。

私はすべての脇役達を愛していて、できる限りそれぞれのキャラクターに二極性を持たせようと思いました。私たちは皆、良い人であると同時に悪い人でもあるのです。私はユーモアと感情を織り混ぜて、すべてのキャラクターが愛すべき複雑なキャラクターになるようにしました。

この話は、私に新しい映画表現を模索する機会を与えてくれました。私は観てくれる人たちに、視覚的な意味で新しい経験を提供しようとしています。アーツ&クラフツの美しさと主観的空間という二つの視覚です。それぞれのキャラクターは、自分で自分の世界を決めます。皆それぞれに、自分の性格に関連した自分の領域があるのです。それぞれの島はどれも、他の島とは調和していません。でも全体として、ある種の家族のようなつながりがあるのです。マノーレの部屋と彼の環境は、完全に主観の世界です。これは、どんなことでも起こり得る、子供の夢や詩の世界から着想を得ました。それとは対照的に、イシュトヴァンのアパートは厳格なルールに支配されています。それは私たちの思春期のように、自分の居場所が見つからず、周りに理解してもらえないと感じるような時期に与えられていた規則です。マノーレとイシュトヴァンのちょうど間に位置するのがソランジュのアパートで、「あるがままを受け入れる」というおおまかなルールに従っています。

この映画は、ビジュアルアートと音楽が会う場所であり、魅力的で楽しめる作品です。この映画を見て笑ったり泣いたりするうちに、いつしか、自分たちが探し求めている愛や優しさを感じているはずですよ.....

アンカ・ダミアン



アンカ・ダミアン

ルーマニアの国立舞台映画芸術学院で、映画撮影と美術・映画・メディアの博士号を取得。卒業後は監督、脚本家、プロデューサーとして、芸術関連のドキュメンタリーに関わる。

2008年に、監督、脚本、共同プロデューサーとして、初の長編である『Crossing Dates/Intalniri Incrucisate(交差する出会い)』を製作。バラエティ誌のジェイ・ワイズバーグは、その幾重にも重なるストーリーについて、「アンカ・ダミアンは注目に値する」と評した。この映画は釜山、シカゴ、ゴア、コトブス、ヨーテボリ、ローマなど各地の国際映画祭に選出された。

2012年には、監督、脚本、プロデューサーとしての2本目の長編である『Crulic – The Path To Beyond / Crulic Drumul Spre Dincolo(クルーリック その先へ続く道)』が、国際的な成功をおさめる。自伝的なナレーションと実験的な形式からなるこの不条理映画は、ロカルノ、テルライド、BFIロンドン映画祭、アヌシー、釜山、ニューヨークの新人監督/新作映画祭などをはじめ、250の映画祭に選出された。この映画は、アヌシーのクリスタル賞を含めた、様々な国際的映画賞を35以上も受賞した。

2013年の次の長編、『A Very Unsettled Summer/O Vara Foarte Instabila(とても落ち着かない夏)』は、ピランデルロからインスパイアされた三角関係を全く新しい見方で捉えたもので、キム・ボドゥニア、ジェイミー・サイブス、アナ・ウラルといった国際的なキャストによる英語の映画であった。また、この映画は、ルーマニア、スウェーデン、チェコ、イギリスの提携会社が共同制作した。

2015年に発表された2作目の長編アニメである『The Magic Mountain/Muntele Magic(魔法の山)』は、力強い題材と革新的なビジュアルスタイルの組み合わせという、アンカ・ダミアンの特徴を踏襲したものであった。アフガニスタンに住むドン・クイク

オートの話は、Crulic(クルーリック)から始まる3部作の2本目となった。この映画はフランスではアヌシーでプレミア上映され、カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭で国際プレミア上映された。この映画はサンセバスチャン、ライブツィヒ、アミアン、釜山といった様々な60以上の映画祭に選出され、11の国際的映画賞を受賞した。アンカ・ダミアンはまた、Eurimagesが主催する、監督となって注目を集め後進の女性達に道を切り開いた勇気を持つ女性に贈られるオーデンティア賞を、2016年に初めて受賞した。

2018年、彼女の最新の実写長編映画『Moon Hotel Kabul(ムーンホテル・カブール)』がワルシャワ国際映画祭で初めて上映され、最優秀監督賞を受賞した。また、彼女の最新のアニメ短編映画である『The Call(コール)』は、アヌシー、トロント、サンダンスなど40以上の国際映画祭で上映され、5つの国際的映画賞を受賞した。

彼女はマドリッド国際映画祭2018で、「新しい監督達にとって真に目標となる、そして比類なきインスピレーションを与える総合芸術家」としてミラダ国際賞を受賞した。



フィルモグラフィと受賞歴

2008年 監督、脚本、プロデューサーとして本格的に始動

2011年 『Crulic – The Path To Beyond(クルーリック その先へ続く道)』監督、脚本、プロデューサー

2011年 ロカルノ国際映画祭 ドン・クイクオート特別賞

2012年 アヌシー国際映画祭 クリスタル賞

2012年 イスタンブール国際映画祭 人権審査員特別賞

2013年 モンストラ 最高映画賞

2013年 アニマブリュッセルアニメーション国際映画祭 観客賞及びベルギーテレビ賞

2013年 『A Very Unsettled Summer(とても落ち着かない夏)』監督、脚本、プロデューサー

2013年 ルーマニア映画製作者協会 最優秀監督賞及び最優秀音楽賞

2015年 『The Magic Mountain(魔法の山)』監督、脚本、プロデューサー

2015年 カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭 審査員特別賞

2015年 アミアン国際映画祭 最優秀映画賞

2015年 ザグレブ映画祭 最優秀長編映画賞

2015年 ドク・ライブツィヒ MDR映画賞

2016年 イスタンブール国際映画祭 オーデンティア賞(Eurimagesより)

2018年 『Moon Hotel Kabul(ムーンホテル・カブール)』監督、脚本、プロデューサー

2018年 ワルシャワ国際映画祭 最優秀監督賞

2018年 マドリッド国際映画祭 ミラダ国際賞

2018年 『The Call(コール)』監督、脚本、プロデューサー

2018年 アヌシー国際アニメーション映画祭 第2位(銀ペガサス)

2018年 CINANIMA IFCA 審査員特別賞

2019年 香港国際映画祭 短編映画コンペティション審査員賞

2019年 『マロナの幻想的な物語り』監督、脚本、プロデューサー

2019年 アヌシー国際映画祭 ワールドプレミア

2019年 富川国際アニメーション映画祭 グランプリ及び 観客賞

2019年 ヒホン国際映画祭 観客賞

2019年 ストラスブール・ヨーロピアン・ファンタスティック映画祭 特別賞

2019年 東京国際映画祭『マローナの素敵な旅』として国内初披露

2020年 ダブリン国際映画祭 観客賞

2020年 シュトゥットガルト国際アニメーション映画祭 スペシャルメンション賞

2020年 東京アニメアワード コンペティション部門 長編アニメーション グランプリ及び 東京都知事賞





ブレヒト・エヴェンス …… 設定およびキャラクター・デザイン

brechtevens.com

1986年生まれのベルギー出身のコミック作家、アーティスト。その独特な手法は「水彩絵の具の名手」「ロマン・グラフィックの至宝」など、各メディアで絶賛される。ロマン・グラフィック（英語ではグラフィック・ノベル）とは、従来のコミック作品の枠を超え、大人を対象とし、ストーリーも文学的であったり、絵画的である。

「The City of Belgium（ベルギーの街）」は、2019年アングレーム国際漫画祭の審査員特別賞を受賞。その活躍はルイ・ヴィトンの「トラベルブック」シリーズ・パリ編や、フランス発のブランド・コテラックとのコラボ製品を手がけるなど幅広い分野に及ぶ。日本でも2019年ミキモトコスメティックスと“The First Snow of Peals”シリーズを展開し話題を集めた。

ジナ・トーステンセン …… 背景美術

vimeo.com/thorstencoo

1980年ノルウェー生まれのビジュアル・アーティスト。2010年、スペインのインディーズバンド、Klaus & Kinski の「El Rey del Mambo y la Reina de Saba」（抒情的な音楽にあわせて、牛がサンバを踊る！！）をはじめ、グラミー賞アーティスト、ゴティエの「Giving Me A Chance” Gotye」（2012 変幻自在の映像美）、The Eye’s Habitの「Principia」（2016 ニュートンの万有引力がテーマ！！）といったミュージック・クリップのアニメーション映像で注目を集める。

バルセロナのGalleryにて個展「Brotan」（2016）、「Cosmogonias」（2018）を開催する一方、壁画アーティストとしてもバルセロナ市役所の25メートルの壁（2017）を手掛けたことで知られている。

サラ・マゼッティ …… 背景美術

sarahmazzetti.com

1985年生まれのイタリア人イラストレーター兼漫画家。The New York Times、The New Yorker、The Guardianといった有名雑誌のイラストから、企業とのコラボレーションまで、幅広く活動する。初の子供向け漫画「I Gioielli di Elsa」（エルザの宝石）は2017年に出版され、ルッカ漫画ゲーム祭でGran Guinigi賞を受賞、また2019年、ボローニャ国際児童図書展で世界的に名高い国際賞を受賞した。

パブロ・ピコ …… 作曲家

pablopico.com

1983年生まれのフランス人作曲家。これまでに100本ほどの短編映画と、セザール賞にノミネートされたサイモン・ルービィ監督のアニメーション『アダマ』や、本作『マロナの幻想的な物語り』を含めた6本の長編映画の音楽を担当している。

また作曲家としてだけでなく時にはミュージシャンとして、ピアニストのアレクサンドル・トロー、ヒップホップ・アーティストのオクスモ・プッキノ、歌手のジェラルム・ジェンティらとステージで共演している。2019年には、レンヌ国際アニメ映画祭で最優秀賞音楽賞を受賞。

イザベル・セルリング …… 歌手（主題歌“Happiness”）

isabelsorling.com

1987年スウェーデン生まれの即興演奏家、作曲家、音楽家。彼女のパフォーマンスは即興、フォーク、アヴァンギャルドの境界を自由に行き来し、脆弱性と熟練を融合させた芸術性が高く評価されている。2020年5月に3作目のアルバム「MARELD」をリリース。

リジー・プロシエレ …… マロナ声

10歳から子役としてフランスの数多くのTVシリーズや映画作品に出演。その後米英の大作ホラーから実験的VR作品まで幅広く活動しながらソルボンヌ大学で映画と文学の修士を獲得し、自ら難民や人種差別をテーマとした作品制作に取り組む。

2018年ガス・ヴァン・サント監督の『エレファント』（2003）の主演で知られるジョン・クリスチャン・ロビンソンと結婚し、一人の子供を授かる。

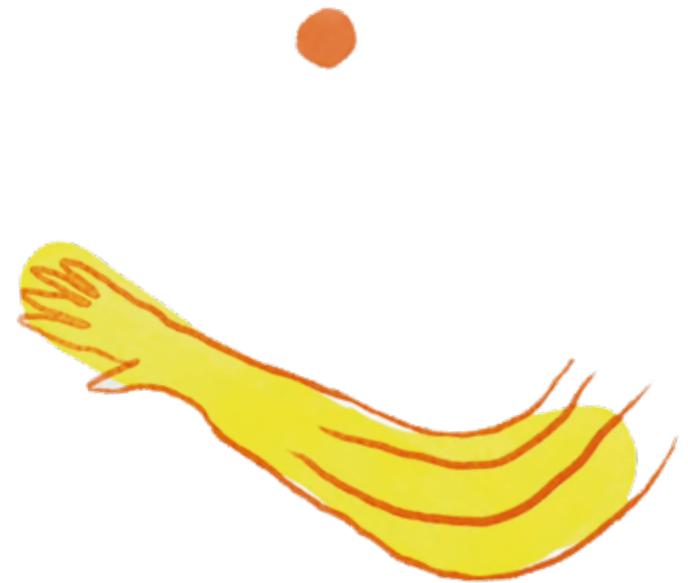
“Happiness (is a small thing)” by Pablo Pico

Happiness is a small thing
Almost nothing
A saucer of milk
A big wet tongue
A nap
A place to bury a bone

Happiness is a small thing
Almost nothing
A hand
A smile
A voice
A heart

Jump up, jump up
High as you can
Jump up, jump up
To seventh heaven

Happiness is a small thing



日本語訳

幸せは ほんのちっぽけなこと
取るに足りないこと
一皿のミルク
大きな温かい舌
昼寝
骨をかくす場所

幸せは ほんのちっぽけなこと
取るに足りないこと
手
笑顔
声
心

跳んで 跳んで
できるだけ高く
跳んで 跳んで
天国まで

幸せは ほんのちっぽけなこと



解説 アニメーション研究家 五味洋子

そのビジュアルをひと目見ただけで心の奥底に響く映画がある。私にとって、この『マロナの幻想的な物語り』がそれだ。ひと目惚れの舞台は2019年の東京国際映画祭ワールドフォーカス部門の告知ポスター。『マローナの素晴らしき旅』という題名だった。ビジュアルに心を惹かれ、すぐにチケットを入手し足を運んだ結果は大当たり。興奮と余韻とともに帰路に着いたのだった。

そして今春には『マロナの幻想的な物語り』の題名で東京アニメアワード2020の長編コンペティションにノミネートされグランプリを獲得。早くも年内に劇場公開予定という。まるでこの映画の主人公マロナのように劇的な運命。

マロナとは栗色をした犬の名前。最後の飼い主がつけてくれた名だ。最初の名前は数字の9。9番目に生まれた子犬。マルチーズの血を引く雑種で、ハート型の鼻と垂れ耳、ふわふわのしっぽがキュートな女の子。映画は彼女が生まれる前から始まり、マロナ自身の語りに乗せて、その変転する生涯を描き出す。9、アナ、サラ、マロナと飼い主によって次々と変わる名前。犬と人の出会いと、心ならずも訪れる別れ。それは犬を通して見る現実社会の縮図でもある。犬の幸せは人の寝顔を見守ることと言うマロナ。その健気さと飼い主に注がれる無償の愛に泣かされる。犬好きにはたまらない映画だろうし、マロナが語る犬の哲学、幸せの定義が心に響くだろう。

この映画はそんな風に犬と人との関係を思い起こさせてくれるのだが、それだけではない、もうひとつの美点がある。それがアニメーションならではの表現。そこにひと目惚れの理由がある。自由奔放、変幻自在。きちんとストーリーを追い、適切な台詞によって時々の心情をよく伝えながら、同時に極めてアーティスティックでアヴァンギャルドな目くるめく表現の挑戦があるのだ。

例えば、生後まもなく捨てられた彼女が会う曲芸師の青年マノーレの描写。黄色にオレンジの縦じま衣装を纏った彼の、重力や遠近や関節や自分自身にすら捕らわれない自由な動き。これは是非ご自分の目で確かめていただきたいのだが、常識のくびきを軽々と打ち破ってみせる表現は圧倒的で、幸福な酩酊感さえ覚える。そして、その表現が青年の曲芸師という職業をこれ以上ないほどの確に表わしている鮮やかさ。

全編を通しビジュアルはカラフルかつユニークで、さながら動く前衛絵画。しわに埋没する顔、子供の落書きのようにくねくねした体、生き物のようにうねり瞬時に変化する髪。赤い毛並がぞわぞわと動き続ける猫のそれ故の猫らしさ。海藻のように揺蕩い続ける草木と、猛魚のように鋭い牙を剥く自動車。うごめき続ける画面はアニメーションの語源がアニマ(命、魂)というラテン語であるという定義を持ちだすまでもなく、世界が命に満ちていることを伝えるに十分だ。息を呑むイマジネーションの連続であり、しかも見る者の目を妨げない。シーン毎に計算された色彩設計も見事だ。

こんなアニメーションは少なくとも長編映画では見たことがない。人間よりも寿命が短い犬の人生はこのように、人間の認識よりも多くのものを圧縮して受容しているのではないかとさえ思わせる不思議に満ちている。人によってはアニメーションそのものに持つ常識すら更新されるのではないだろうか。

また、もうひとつの特徴である2Dと3Dのハイブリッドな表現。これは最近のヨーロッパアニメーションの特徴でもあるが、この映画でも効果的に用いられていて目を奪う。ことにマロナが少女の乗ったバスを追いかける場面は圧巻。カメラワークに連動して仕掛け絵本のように立体的に展開する世界。視覚的な驚きが心を揺さぶり、目が画面に吸い込まれる。走り続けるマロナに、思わず、もうやめと叫びたくなる。この映画において技法や表現はそれのみが目的ではなく、映画自体に貢献し、人の心を動かすためにあるのだ。そこが素晴らしい。

映画はマロナからのメッセージをそっと伝える歌で閉じる。「幸せは ほんのちっぽけなこと 取るに足りないこと・・・」と。

『マロナの幻想的な物語り』は、世界はこのようなものであるという私たちの思い込み、固定概念を根底から揺さぶり新しい視点を開かせてくれる。映画を観終えて外に出たなら、世界が違う貌をして見えるだろう。そして同時に、自分の傍らにある命に優しい目を向けたくなる筈だ。

監督のアンカ・ダミアンはルーマニアの国立舞台映画芸術学院出身。監督・脚本家・プロデューサーとして多くの短編・長編映画やドキュメンタリーを手がけ、2本目の長編アニメーション『Cruic-The Path To Beyond/Cruic Drumul Spre Dincolo(クルーリック その先へ続く道)』はアヌシーのクリスタル賞を受賞、また実写長編映画『Moon Hotel Kabul(ムーンホテル・カブール)』でワルシャワ国際映画祭の最優秀監督賞を受賞している。彼女は自分の全ての作品の根底にあるテーマは「愛と死」であり、この『マロナの幻想的な物語り』は現代版のおとぎ話であると語っている。

また、個性的なグラフィック・コンセプト・コンサルタント&キャラクター・デザイナーのブレヒト・エヴェンスはベルギーの漫画家。バックグラウンド・アーティストのジナ・トーステンセンはノルウェーで壁画アーティストとしても活動、同じくバックグラウンド・アーティストのサラ・マゼッティはイタリア人のイラストレーター兼漫画家。全編を彩る音楽のパブロ・ピコはフランス人の作曲家。本作は日本でも大好評を博した長編アニメーション『ロング・ウェイ・ノース 地球のてっぺん』(レミ・シャイエ監督)のメイン制作プロダクションである仏サクレブルー・プロダクション、プロデューサーのロン・ディエンスによる最新作であり、フランス・ルーマニア・ベルギー合作という、今日的な国境を越えた編成による作品である。

なお、マロナは実在の犬であり、エンドロールで他の多くの犬たちと共に感謝が捧げられている。

五味洋子 アニメーション研究家

元オープロのアニメーター。著書に『アニメーションの宝箱』『未来少年コナン また、会えたね!』他。

webアニメスタイルの「アニメーション思い出がたり」のコラムを担当。東京アニメアワード2017/2018で短編コンペティション一次選考委員。



制作会社

アパルト・フィルム

ルーマニアの映画制作会社。2011年発表のアンカ・ダミアン監督、脚本、プロデュースの『Cruic – The Path To Beyond(クルーリック その先へ続く道)』で注目を集める。この映画は各地の映画祭で大人気となり、2012年のアヌシー国際映画祭クリスタル賞を含め、35以上の国際的な映画賞を受賞し、世界的に配給された。この成功は、2015年に発表された長編『The Magic Mountain(魔法の山)』でも続き、カルロヴィ・ヴァリ、ザグレブ、ライプツィヒ、アミアン、ヒホン、オタワなどで賞を受賞した。2016年に、監督はこの映画に関して、Eurimagesから初めてのオーデンティア賞を受賞した。アパルト・フィルムは芸術的な視点から、重要なテーマやストーリーを挑発的な手法で観客に届けることを目指している。会社名は、アンカ・ダミアンの映画の特徴でありアートコンセプトである「別離/特別/ユニーク/別々に/特に」を意味するルーマニア語からとられている。



サクレブルー・プロダクション

1999年にロン・ディエンスにより創設。世界中1500以上の映画祭に選出された、あらゆる種類の数百の映画カタログを持つ。2010年、ビップ・コドロヴ監督の『Free Radicals(フリーラジカル)』をプロデュース。2016年にはレミ・シャイエ監督の『ロング・ウェイ・ノース 地球のてっぺん』を発表し、フランスで52万人以上を動員、世界30カ国で配給され、アヌシー国際映画祭で観客賞を受賞。

サクレブルー・プロダクションはパルムドールを1回、金獅子賞を1回、銀熊賞を1回、セザール賞を1回とアヌシーのクリスタル賞を2回獲得している。オスカーにノミネートされたこともあり、2010年には短編映画プロデューサーのプロシレップ賞を受賞し、2013年のプロシレップ賞では、テレビのアニメーションシリーズで最優秀賞プロデューサー賞を受賞した。2019年にはルカ・トス監督の短編『Mr. Mare(メア氏)』(ベルリン)、アニエス・パトロン監督の『L'Heure de l'Ours(熊の時間)』(カンヌ)、レンディタ・ゼクィラジ監督の長編『Aga's House(アガの家)』(カルロヴィ・ヴァリ)、アンカ・ダミアン監督の『Marona's Fantastic Tale(マロナの幻想的な物語り)』(アヌシー)を発表。

マインズ・ミート

ブリュッセルに本社を置く、独立系のベルギーの制作会社。ヨーロッパのノンセンス長編映画とドキュメンタリーの制作と共同制作を得意としている。マインズ・ミートが関わる映画は、カンヌ、ベルリン、ヴェニス、トロントなどの国際映画祭に数多く選出されている。



WITH THE VOICES OF

Marona	LIZZIE BROCHERE
Manole	BRUNO SALOMONE
Istvan	THIERRY HANCISSE
Medeea	NATHALIE BOUTEFEU
Little Solange	SHYRELLE MAI YVART
Teenage Solange	MAÏRA SCHMITT
マロナ	リジー・ブロシェレ
マノーレ	ブルノ・サロモン
イシュトヴァン	ティエリー・ハンシス
メディーア	ナタリー・ブトゥフ
ソランジュ(子供時代)	シレル・メ・イヴァート
ソランジュ(思春期)	マイラ・シュミット

ARTISTIC AND TECHNICAL LIST

A film by	ANCA DAMIAN
Original script by	ANGHEL DAMIAN
After an idea of	ANCA DAMIAN
Graphic concept consultant & Character designer	BRECHT EVENS
Background artists	GINA THORSTENSEN, SARAH MAZZETTI
Original music	PABLO PICO
Lead animators	DAN PANAITESCU, HEFANG WEI, LOÏC ESPUCHE, CHLOÉ ROUX
Animators Marona	CLAUDIA ILEA, MARJORIE CAUP, MATHIEU LABEYE,
Chief sound editor	CLÉMENT BADIN
Sound Editors	REGIS DIEBOLD, MATHIEU Z'GRAGGEN
Sound mixer	LIONEL GUENOUN
Producers	ANCA DAMIAN, RON DYENS, TOMAS LEYERS
With the support of	EURIMAGES, ROMANIAN FILM CENTER
Creative Europe Programme	MEDIA de l'Union Européene
With the participation of	L'AIDE AUX CINÉMAS DU MONDE, CENTRE NATIONAL DU CINÉMA ET DE L'IMAGE ANIMÉE, L'INSTITUT FRANCAIS
With the support of	CNC (Création Visuelle et Sonore Numérique), LA RÉGION PROVENCE-ALPES-CÔTE D'AZUR in partnership with the CNC, LA REGION NOUVELLE-AQUITAINE in partnership with the CNC, STRASBOURG EUROMETROPOLE ET DE LA REGION GRAND EST in partnership with the CNC, LA SACEM
With the support of	FLANDERS AUDIOVISUAL FUND (VAF), TAXSHELTER.BE, SHELTERPROD, ING, THE TAX SHELTER INCENTIVE OF THE BELGIAN FEDERAL GOVERNMENT
With the participation of	DSG animation + vfx, INTERTOY ZONE & NORIEL IMPEX, MARMITAFILMS INNERVISION, M MEDIA SHARINGCLOUD, CINEFEEL DOTATION
In collaboration with	ROMANIAN TELEVISION SOCIETY
French distributor	CINÉMA PUBLIC FILMS
International sales	CHARADES